

大学等名	桜美林大学 外27校
テーマ名	テーマ4：他大学との統合・連携による教育機能の強化
取組名称	大学間連携による教養教育への総合的取組
取組学部等	大学全体
取組担当者	本郷 優紀子
取組期間	平成16年度～平成18年度
Webサイト	http://www.obirin.ac.jp/001/a002.html

取組の概要

首都圏西部に位置する有志大学グループ(28大学)は、大学間で連携し、現代に求められる大学教育の質向上のため、下記の3本の柱を立てて教養教育への総合的取組を行った。

・**単位互換制度**：各大学が提供する多彩な教養科目の中から、学生が履修したものを所属大学の単位として認定する「単位互換」を実施した(平成11年度より実施)。

・**「共同授業」**：半期ごとに学生の希望に合わせた統一テーマを設定し、隔週土曜に180分のオムニバス形式の教養科目としての「共同授業」を開講した(平成13年度より実施)。

・**大学前教養導入教育**：大学における教養教育の実現には、前段階における導入教育(大学前教養導入教育)が必要であることから、高校生に「共同授業」の受講を認める(平成14年度より)とともに、夏休み期間2泊3日で個々の大学の宣伝を廃した「高校生のための”大学”セミナー」を開催した(平成15年度より実施)。

さらに平成16年度より、サテライト授業やeラーニングシステム・評価システムの構築を行うことなどにより従来の教養教育への総合的取組を深化させることができた。

実施の経緯・過程

取組の実施状況

首都圏西部に位置する本学を含め28大学が、学生の大学入学後の学びを充実させるための教養教育への総合的取組みとして「単位互換」を実施した。

さらに、学生の興味関心のあるテーマに基づくオムニバスの「共同授業」の開講、大学前教養導入教育である高校生への「共同授業」の提供と「高校生のための”大学”セミナー」の開催を行った。

またそれらをより深化させるために、単位互換科目、「共同授業」、「高校生のための”大学”セミナー」のeラーニング化を進めるとともに、授業評価による授業改善にも取り組んだ。

教育課程・教育方法の工夫

比較的小規模の単科大学が多い我々28大学では、単位互換協定を結ぶことにより、学生に個々の大学では提供しにくい1,000科目にも上る幅広い教養科目を提供し、学びの触発を行った。

また、自大学の授業科目の受講などで時間的ゆとりのない学生の単位互換を促進するために、学生が受講しやすい土曜の午後に、学生の興味関心のある統一テーマによるオムニバス授業として「共同授業」を開講した。

さらに、多忙な学生の学びを支援するための工夫として、単位互換提供科目の一部と「共同授業」や「高校生のための”大学”セミナー」を、インターネットに接続できる環境のパソコンがあればいつでもどこからでも受講できるオンデマンド方式のeラーニングとして配信した。

このeラーニングでは、1回の授業を複数のファイルに分割し、ファイルとファイルの間には、前のファイルで学ばせた内容がランダムに出題される確認テストを用意し、合格するまでは次のファイルに進めない仕組みを作り、最後まで到達した受講者のみ受講を認める工夫を施した。

eラーニングを実施する「共同授業」に関しては、学生によるアンケート調査以外に、eラーニングシステムを利用して、教職員による授業見学や授業評価を行い、授業改善に役立てる工夫を行った。

実施体制

単位互換提供科目は、対面式、eラーニングとも、4月(前期・通年科目)および6月(後期科目)に提供科目をとりまとめて各大学の学生に周知し、学生の所属大学の教務課で受講希望をとりまとめ、授業提供大学の教務課宛に受講出願を行う体制をとった。

「共同授業」も同様に対面式、eラーニングとも期ごとに学生の出願を受け付けた。高校生の「共同授業」の受け入れについては、地元の公立高校の進路指導協議会が各校の受講希望書類をとりまとめ、「共同授業」担当事務局に届ける体制をとった。

「高校生のための”大学”セミナー」については、28大学全てが役割を分担して取組み、毎年夏休みに2泊3日で実施した。このセミナーは、高校生に大学前教養導入教育として、協力大学の宣伝は一切せず、大学で何を学ぶかということや、人生で学ぶことの意味をしっかりと高校生に自覚させるためのプログラムであることをホームページ等で全国の高校生に呼びかけ、参加を募った。

単位互換提供科目や「共同授業」、「高校生のための”大学”セミナー」のeラーニングの収録および受講管理等については、28大学が共同で運営する事務局および、業務委託により行った。

各年度の実施内容

・平成16年度（取組開始時期は後期）

単位互換：全提供科目数は915科目、受講者数は356名。単位互換促進のため、全大学の学長によるeラーニング「学びの特色ガイダンス」をアップロードして学生に周知させた。

「共同授業」：従来の対面式授業に加え、翌年度から4テーマのうち2テーマを対面式プラスeラーニングにより開講することとしたため、講師への説明等の準備を行った。16年度の全受講者数は520名で、うち大学生472名、高校生48名であった。

大学前教養導入教育：高校生の「共同授業」への受け入れを行った。

地元神奈川県立高等学校進路指導協議会の役員と17年度実施予定の「高校生のための”大学”セミナー」に向けての打合せを行った。

サテライト授業：時間的、物理的制約により受講困難な学生の便宜を図るため、渋谷にサテライト教室を確保した。16年度は試行的にeラーニング研修会を実施した。

eラーニング：17年度からの本格実施に向け、サーバの設置、必要なソフトの設定を行った。さらに、各大学でeラーニングコンテンツを作成できるよう、全大学の教職員を対象にeラーニングコンテンツ作成および教材管理について、各自でパソコンを使っ
ての6時間におよぶ実地研修を3回行った。

評価システム：eラーニング化した「共同授業」は、FD活動としてとらえられるため、17年度より教員の授業見学や授業評価による授業改善を行うこととした。

・平成17年度

単位互換：全提供科目数は1,376科目、受講者数は447名。うち、eラーニング提供科目数は2科目で受講者数は17名であった。

「共同授業」：17年度の全受講者数は435名。うち大学生405名、高校生30名（うちeラーニング12名）であった。

大学前教養導入教育：高校生の「共同授業」への受け入れを行い、学びの動機付けの2泊3日の合宿セミナー「高校生のための”大学”セミナー」を実施した。参加者は66名。

サテライト授業：単位互換授業1科目、「共同授業」1科目を渋谷のサテライト教室で実施した。いずれも対面式授業に加え、eラーニング収録も行ってコンテンツ化した。

eラーニング：本格稼働のためにデータベースサーバを用意し、メール以外の教員・学生双方向の意見交換を可能とするための掲示板機能を追加した。単位互換科目では2科目を開講、受講生は17名。「共同授業」では2テーマがeラーニングも平行して実施した。「共同授業」のeラーニング受講生は12名（うち高校生2名）であった。

評価システム：公開的要素の強い「共同授業」について、学生への授業アンケート調査を実施。eラーニングを実施した「共同授業」2テーマについては全加盟大学の教職員に呼びかけてweb上の授業見学と授業評価を行い、その集計結果を各大学に伝えた。

・平成18年度

単位互換：全提供科目数は1,503科目、受講者数は803名。うち、eラーニング提供科目数は8科目、受講者数は539名に増加した。

「共同授業」：18年度の全受講者数は660名、うち大学生633名、高校生27名（うちeラーニングは54名）であった。

大学前教養導入教育：高校生の「共同授業」への受け入れを行うとともに、学びの動機付けとして、合宿セミナー「高校生のための”大学”セミナー」を実施。51名が参加した。

サテライト授業：都心での教室確保が困難となったため、サテライト授業の実施はできなかったが、eラーニングを充実させる方向で学生への便宜を図ることとした。

eラーニング：単位互換科目では8科目を開講、受講生は計539名。「共同授業」では3テーマがeラーニングを平行して実施した。「共同授業」のeラーニング受講生は54名（うち高校生1名）であった。さらに「共同授業」の対面式受講生にも授業後に再度授業の確認ができるよう対面式授業受講者606名全員にそれぞれの閲覧用ID、パスワードを配布した。

評価システム：公開的要素の強い「共同授業」について、学生への授業アンケート調査を実施。eラーニングを実施した「共同授業」3テーマについては全加盟大学の教職員に呼びかけてweb上の授業見学および授業評価を行い、その集計結果を全加盟大学に配布した。

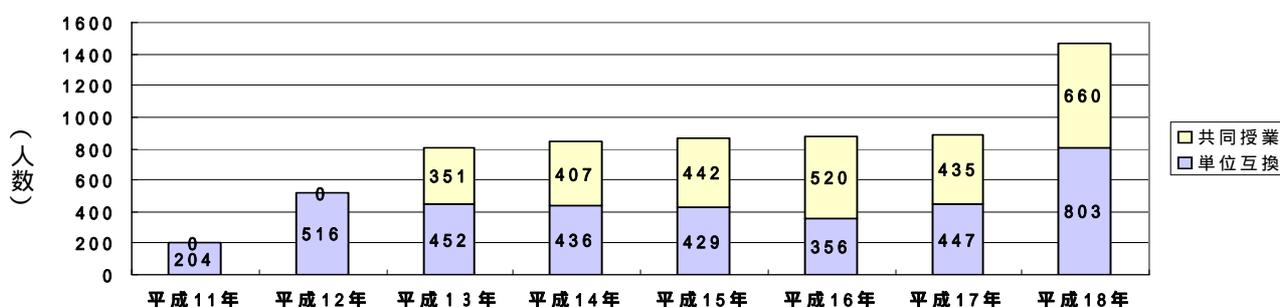
目的に対する成果、人材養成面での達成度

取組の目標や課題に対する達成度

単位互換および「共同授業」、「高校生のための”大学”セミナー」を深化させるためのeラーニング化が実現し、受講者を増やすことができた。eラーニングの受講確認についてのチェックシステムも構築し、授業についての厳密な受講確認テストが行われ、eラーニング機能の充実が果たされた。

教養教育の総合的取組として単位互換科目や「共同授業」の実施については、eラーニングを導入することによって取組初年度の16年度の単位互換と「共同授業」の受講者合計876名から、最終年度の18年度には本取組の成果が上がり、単位互換と「共同授業」の受講者合計が1,463名（うちeラーニング593名）と大幅に増加し、本取組の目標である教養教育の充実を促進させることができた。

【グラフ1】単位互換科目と共同授業の受講者数推移



就職への影響等

幅広い提供科目の受講により、学びへの意欲が触発され、それが豊かな教養へと繋がった。この教養の蓄積は、さまざまな生活場面で活かされ、就職面にも好影響を与えることができた。

自大学の教育改革への影響、他大学等への波及効果、地域社会等への波及効果

効率化・新たな付加価値の創出

従来から続けてきた対面式の単位互換授業や「共同授業」について、多忙な学生のニーズに応え、いつでも、どこからでも受講できるオンデマンド方式のeラーニングによる授業配信を行うことができたことは学生生活や大学運営の効率化に大きく貢献した。

教員による授業評価（「共同授業」）

eラーニングの実施により、教員による授業見学が容易になったため、「共同授業」の授業評価をeラーニング上で行うことにした。これにより、教員がいつでもどこからでも授業見学や授業を評価ができることとなり、eラーニングシステムの改善や授業内容の改善に役立てることができた。

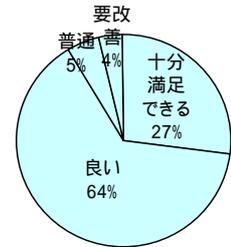
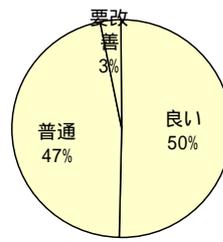
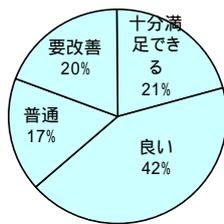
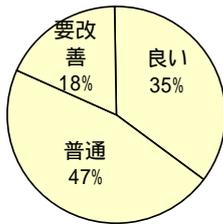
【グラフ2】教員によるeラーニングの評価

17年度eラーニングシステム

17年度eラーニング授業

18年度eラーニングシステム

18年度eラーニング授業



広報活動の状況

単位互換制度や提供科目一覧、「共同授業」の実施状況、「高校生のための”大学”セミナー」の紹介やeラーニングをホームページで紹介し、各地から招かれた講演会でも取組を紹介した。

他大学や地域社会・関係団体等への波及効果

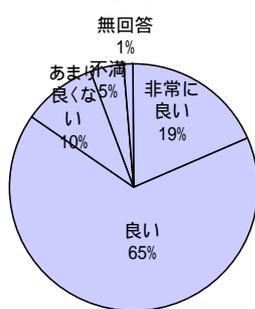
本取組の中の単位互換制度やそれを支援するためのeラーニングの効果が評価され、近隣のコンソーシアムとのeラーニングコンテンツの共有や単位互換科目の共有など、協力関係が提案され、実施に向け検討することとなった。

学生等の評価

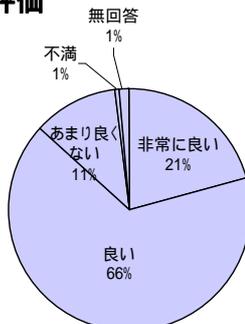
学生による授業評価アンケート、意識調査等（「共同授業」）

下グラフは「共同授業」の学生によるアンケート結果の推移（アンケートのうちの総合評価）。授業評価のアンケート結果を次年度の授業に反映させることにより、年毎に評価が高くなった。

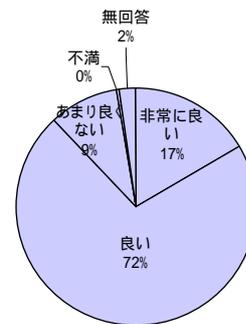
【グラフ3】学生による共同授業の評価



16年度共同授業学生アンケート



17年度共同授業学生アンケート



18年度共同授業学生アンケート

学外からの評価

地域社会、自治体、関係団体等からの評価

関西、九州、東北地区の大学やコンソーシアムから本取組についての説明や講演依頼があり、講演や説明において、高い評価を得た。殊に「高校生のための”大学”セミナー」と単位互換を伴うeラーニングについて評価され、各組織でも本取組に倣って同様の取組を行いたいとの意見が聞かれた。地元自治体にも評価され、広報誌、町田市のホームページでも紹介された。

報道の反応

特に大学前教養導入教育について高く評価され、高校教員対象の月刊誌『高校教育』2006年（平成18年）7月号に5頁にわたって掲載されたほか、読売新聞多摩版（平成17年7月27日）、「大学新聞」（平成18年6月25日）や地域新聞「武相新聞」（平成17年8月6日）などにも記事掲載された。

取組支援期間終了後の展開

取組の成果を活かした継続的な事業の実施

大学生の単位互換科目と「共同授業」のeラーニングによる受講が大幅に伸びたことにより、全体の受講率がアップした。今後もeラーニング化を進め、学びの支援を充実させていく予定である。

新たな事業展開の計画

他コンソーシアムにも大学前教養導入教育の実施を呼びかけるとともに、eラーニングコンテンツの共有による単位互換を呼びかけるなど、本取組を広げていくことを計画している。

本件お問合せ先 [桜美林大学総合研究機構事務局](mailto:info@shibubun.ac.jp) 042-797-9914